

## 会議録（要点録）

会 議 名	第 6 回 第 3 次八王子市教育振興基本計画策定検討会	
日 時	令和元年（2019年）5月27日（月）午後7時00分～8時30分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 801会議室	
出席者氏名	参 加 者	和田孝、高橋洋、関口眞吾、中原教智、真喜志尚子、石渡ひかる、野牧宏治 : 座長 : 副座長
	教育委員会事務局職員	設樂恵 学校教育部長、斉藤郁央 学校教育指 導担当部長、佐藤宏 図書館部長、橋本盛重 学校教育政策課長、野村洋介 学校教育指 導統括主事、安達和之 生涯学習政策課長、太田浩市 中央図書館長、渡邊聡 教育総務課長、高橋健司 学校複合施設整備課長、溝部和祐 教職員課長
	事 務 局	三枝信博 学校教育政策課主査、持田勝 学校教育政策課主査、上島加奈子 学校教育政策課主事
欠 席 者	香取武雄、新庄良輔、小山等 生涯学習スポーツ部長	
次 第	1 開会 2 議題 第3次八王子市教育振興基本計画の基本的な方向について 3 その他 4 閉会	
公開・非公開の別	公開	
傍 聴 人 数	1名	
配 付 資 料 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 第5回 第3次八王子市教育振興基本計画策定検討会会議録</li> <li>・ 資料1 - (1) 第3次八王子市教育振興基本計画の基本的な方向について</li> <li>・ 資料1 - (2) 第2次計画と第3次計画案との対比</li> <li>・ 資料1 - (3) 第2次計画と第3次計画との施策体系変更点</li> <li>・ 資料2 参考：基本理念等検討資料</li> </ul>	

	会議の内容
	1 開会
座長	<p>第6回策定検討会を開始する。</p> <p>事前にお知らせしたように、今回は「第3次八王子市教育振興基本計画の基本的な方向」について、参加者の皆さん一人ひとりから、忌憚のない意見をいただきたいと思う。</p>
事務局	<p>2 議題「第3次八王子市教育振興基本計画の基本的な方向について」</p> <p>資料1 - (1) ~ (3) 及び資料2 について説明。</p>
座長	<p>「基本理念」、「今後10年をめざす教育の姿」、「今後5年間に取り組む施策」の順に意見をお聴きする。まずは、「基本理念(案)」について、意見や助言がある方は、よろしくお願ひします。</p>
参加者	<p>第2次計画の基本理念では、冒頭が「子どもたちが」で始まっていたが、第3次の基本理念(案)では、「誰もが」に変更している。教育とは生涯続くものであるため、市の政策として子どもたちだけのためのものではないという姿勢が表れており、とても共感できる。</p>
事務局	<p>生涯学習の概念からとすると、子どもたちに限定できないところだったため、主語をあらゆる世代の人々を示す「誰もが」に置き換えた。</p>
参加者	<p>「自分の『みち』を自信をもってあゆめる力を育む」という表現がとてもよい。あらゆる人たちが自分の道を自信をもって歩める社会をどのように実現していくのか、期待したい。</p>
参加者	<p>子ども一人一人の個性や状況が違ふし、歩む道も人それぞれ。自信をもてず、不登校になってしまったり、前に進めなかったりする子どももいる。「自信」をもてれば、多少の壁を乗り越えてゆけるはず。「自信」という言葉をキーワードに、自信をもった人間をどのように育てていくのか施策体系の中に反映していければよいと思う。</p>
参加者	<p>「学び合い」の「合う」は誰と誰が「学び合う」ことを想定しているものなのか。また、「育む」部分は市民一人一人が自分自身の力を育てていくのか、それとも、はちおうじの教育が市民の力を育てていくのか。</p> <p>「あゆめる力」部分の言葉の使い方について、主語を誰にするかによって表現の仕方が変わってくる。強調するのであれば「あゆむ力」であるし、これから形成されていく力なのであれば「あゆんでいく力」となる。以前、「あるける力」に「」(括弧)がついている表現だったが「」(括弧)が取れている。「みち」を育むだけではなく、「あゆめる力」も一緒に育むものであるから、「みち」に「」(括弧)がついているのであれば、「あゆめる力」にも「」(括弧)をつけなければならないと思う。</p> <p>修正前、「一人一人が～」で始まっていた部分を「誰もが」に変更した点について評価する。生涯学習というのは、一人の学びだけではなく、社会性や市民連帯といった、誰かと一緒に学んで、協働して学んでいくもの。表現として弱く感じるが、多くの対象者に広げたことで、多くの市民に呼びかけているような雰囲気伝わってくる。</p> <p>さらに特色を持たせるのであれば、「はちおうじの教育」の前に何か形容詞はつけ</p>

事務局	<p>てはどうか。「夢があふれる」「夢あふれる」だとか、はちおうじの教育に豊かさが出てくるのではないか。</p> <p>三鷹市では「コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進」とし、コミュニティ・スクールを基本とした施策を進めている。</p> <p>「学び合い」という部分については、国の第3期計画などでも、多様な人々との協働を強調されていることや生涯学習への思いが多く述べられている点も踏まえ、単に一人一人が学ぶだけでなく、それぞれが重層的に学んでいるような姿を表現したものである。「みち」の部分を「」(括弧)で括った意図は、本市のブランドメッセージである「あなたのみちをあるけるまち八王子」の「みち」をそのまま引用したことから、「みち」の部分にのみ「」(括弧)をつけた。</p> <p>また、「はちおうじの教育」の前に形容詞をつけるというご提案も今後検討していきたい。</p>
事務局	<p>既に本市では、生涯学習プランの基本理念においても「まなぶ」「いかす」「つながる」と示しており、個人の学びが社会で活かされ、市民活動につながっていくとし、「学び合い」の要素を含んでいる。「育む」の主語については、市教育委員会や学校などを指すことが1つあり、それは、公教育の使命として、知・徳・体の育成や、子どもの自己肯定感、自己有用感を育成するという役割を担っている。またもう1つの主語の考え方として、「自分のみち」と表していることから、子ども自身、親自身などが、相互に育み合うことの意味合いがあると考え。</p> <p>「あゆめる」は「あるける」を引きずってしまったもの。無理やり感が出てしまったと感じる。「一人一人が」を「誰もが」としたことについては、それぞれの学びが「学び合い」につながるという意味を示した。</p> <p>「はちおうじの教育」の前に形容詞をつけるご提案については、市長が日頃から申し上げている「夢や希望が持てるまち八王子」の要素からの引用を含めて検討したい。今後、本検討会での意見を参考に、事務局で案を再考し、教育委員へ示し、決定していきたいと考えている。</p>
参加者	<p>「はちおうじの教育」の前に、形容詞がなくてもいいのではないか。読み手に想像性をもたせる意味では必要ないかもしれない。入れてしまうことで、イメージが限定的になってしまうのではないか。</p>
参加者	<p>子どもたちの得意なものを見つけて、それを活かして自立させることが実現できるような理念であると心強く感じた。</p>
参加者	<p>基本理念も、市の他の計画等の理念との共通性、統一性があることはとても大切なことであるため、考慮してもらえればよいと思う。</p>
座長	<p>それでは、次に「今後10年間を通じてめざす教育の姿」です。</p> <p>「今後10年間を通じてめざす教育の姿」について、意見や助言がある方は、よろしくをお願いします。</p>
参加者	<p>Society5.0(ソサエティ5.0)と言われているが、10年後には社会の在り様が変わっていく。15歳から65歳の生産年齢層以上の年代の人はこれまでボランティアで社会貢献をしてきたが、Society5.0時代は、何らかの形で学び、資格や知識、技能を修得して社会貢献していかないと、成り立っていかない。そのような時代を意識して「人生100年時代」という表現が加わった点はよいと思う。「人生100年時代」の到来を全市民に意識してもらい、子どもも大人になっても勉強し続けようというような啓発ができて、みんなで社会を作っていくことができればよい。</p>

	しかし、具体的な施策の部分が、これまでの生涯学習施策のままの印象を受ける。
参加者	第2次計画では、めざす教育の姿が4つの分野だったものを3つの分野にしたのは腑に落ちる変更である。学校と家庭と地域が分断された施策ではなく、連携したものであることは、現行計画を推進してきた中で実感している部分であったと思うため、1つの分野に統合する言葉で表現したことはとても共感できる。
参加者	「人生100年時代」という表現に違和感がある。100歳になってまで学ばなければならないのかという印象を受ける。人生のステージごとに学ぶ方法があることは大切であるが、技術革新に無理してついていく必要はなく、人それぞれの「豊かな学び」があればよいのではないかと思う。
事務局	「見据えた」という表現が「100歳まで頑張らなければいけない」というような印象を与えてしまっているのかもしれない。いくつになっても健康で、楽しく学ぶ場があるという前向きな意味で捉えているつもりなのだが。
参加者	よく書店で「人生100年」と銘打った関連書が並んでいることに違和感を持っている。しかし、我々にはわからないことが隠れているのではないかとも思う。おそらく違和感を持っている人は多いと思う。他に言い換えるよい表現があれば、検討してほしい。
参加者	小学校の通学路の見守りを、80歳くらいのお年寄りが担ってくれている。体も動き、自分が立っているだけでドライバーに注意を仰ぐことができると、学校に貢献してくれる方がたくさんいる。 生涯学習はステージ別に学ぶことも大切だが、国もキャンペーンとして啓発している意味としては、「人生100年時代」という言葉には、90歳になっても元気があれば社会に出てほしいというメッセージが含まれていると感じる。子どもたちのために活動してくれる人を開拓できるのではないか。社会に貢献してくれるお年寄りをいかに引き込むかということが大事である。
参加者	人生100年の活動が今後10年間を通じてめざす教育の姿「学校・地域・家庭の連携による教育力向上」につなげるのであればよいが、生涯学習につながっていることに違和感がある。
参加者	「人生100年」学んでいくことはよいが、一人では生きていけないので、「ともに」という言葉がどこかに入ること、助け合いで生きていくイメージがでてくる。
参加者	生涯学習のめざす教育の姿では「いくつになっても学べる」というようなニュアンスの表現があるとやわらかくてよいと思う。「見据えた」となると、「100歳まで生きる」というイメージを受ける。生涯学習は、どのようなステージでも楽しく学んでいけるような表現があるとよい。
参加者	「人生100年」ではなく、それぞれの人が大人になっても寿命まで、人生を全うするまで、学び続けることが大切であるということが伝わればよいと思う。「見据えた」というと、高齢になっても社会貢献していかなければならないような、義務的な感じが強い。
参加者	めざす教育の姿の図を見て、子どもの学びと生涯にわたる長い学び、そしてそれらを支える地域と家庭の連携の要素が、単純な表現の図ではあるが、めざす姿がよく表れている。

	<p>先日大阪で開催された、教員養成大学を対象とした国の説明会で、「人生 100 年時代」と「Society5.0」の担当者から説明があった。「Society5.0」時代とは、AI 技術の進歩が進む時代であり、AI を動かす人と AI によって動かされる人のいずれかに分かれる時代であるということだった。しかし、人は人として生きる教育があるはずという議論にもなった。</p> <p>実は、「人生 100 年時代」には、いつまでも元気でいてほしいという意味のほか、年金財源の確保などの政治的意味も含むため、国も積極的にアピールしている。そのような背景も考慮した上で、行政が前進的なキーワードを使う際には、慎重になったほうが良いかもしれない。あわせて、「学びを深める」とか「学び続ける」などの要素を入れることを検討してもよいのではないかと思う。</p>
座長	<p>それでは、最後に「施策体系」です。</p> <p>「施策体系」について、意見や助言がある方は、よろしくお願いします。</p>
参加者	<p>施策 3 「【新】いじめ防止対策の推進」を独立した施策としたことは、今の実態とニーズに合致している。また、施策 27 「【新】学校における働き方改革の推進」についても同意。この施策なくして子どもたちに向き合う時間の確保はできず、施策を担っていくべき教員にゆとりがなければ、新しい施策を掲げても実現することができない。生き生きキラキラと輝いた教員が増えるような原動力となるこの施策を独立させることはよい案だと思う。</p> <p>施策展開の方向 1 「確かな学力の育成」にある施策 1 「基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上」は、働き方改革と密接に関わることである。施策の具体的な取組の一つとして、小学 5・6 年生で、教科担任制をモデル校（いずみの森小中学校）で試行してみたいかがか。昔と違って、最近の子どもたちは、ある程度の学力が備わっている。より専門性の高い学力を身に付けさせるためにも、担任を置きながら、専科教員の授業を受ける機会を設けていくことが必要であると思う。</p> <p>そして、大人の社会性を育むことを学校教育の施策に入れることができないか。子どもにとって、身近な存在である教員が、社会の大人のロールモデルとなり得る。生き生きした大人に接することで、子どもたちは「大人って楽しそうだな」と感じることができると思う。そのことから施策 17 「教員の資質能力の向上」に、教員が生き生きキラキラできるような取組が必要だと思う。</p> <p>質問であるが、第 2 次計画では施策 14 「保・幼・小の連携の推進」とあったものが、施策 12 「幼児期からの教育の推進」に名前が変わっているが、就業までをイメージしているのか。あえて終わりの時期を明記していない理由があるのか。</p>
事務局	<p>「子ども・子育て支援法」の施行があり、認定子ども園が教育委員会の所掌に関わってきている。ただ連携するだけでなく、もう一步踏み込んで取り組んでいくという意味を込めて、施策名を変更している。</p>
事務局	<p>教科担任制に関連して、令和 2 年度に開校する義務教育学校では、第 1 期（1～4 年生）第 2 期（5～7 年生）第 3 期（8～9 年生）の新しい区分での運営を検討している。その学校では第 2 期（5～7 年生）以降で教科担任制を導入する予定。効果検証し、導入できる取組を他校へ広めていく。しかし、小学校では、各教科に授業時数の設定があり、教科によって時数が異なる。国語であれば、週に何時間も授業を行うため、国語を専門とする教員が担当する時間が多くなってしまふなどの課題が多く、中学校と同じように教科担任制を実施することは難しい現状である。</p>
参加者	<p>一部の教科で教科担任制を導入した。小学 5・6 年生では、社会科は週あたり 3 時間、理科は週 3 時間である。両教科のように時数が均等で、ある程度専門性の高い教員が在籍していれば導入し易い。教科担任制のメリットは、隣のクラスも担当す</p>

	<p>るので、両クラスの担任が互いのクラスの児童の様子を見ることができる。また、1時間目のクラスの授業での課題を、2時間目のクラスの授業で改善して行い、授業を発展させていける。理科では、実験道具の準備片付けの時間の削減など、授業時間以外の課題の改善にもつながる。しかし、中学校のように、全教科で行うのは現実的に難しいと思う。</p>
参加者	<p>この体系案は、施策名までのため、具体的ではないのだが、施策展開の方向1「確かな学力の育成」は大切なことである。それぞれが自分のみちをあるくということの基本理念とするのであれば、施策1「基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上」は、分けて2本立てにし、勉強が苦手な子どもへの指導と、その他もっと上をめざしたい子への施策などがあってもよいのではないか。</p> <p>施策22「家庭教育支援活動の推進」について、問題がある子どもは家庭にも問題がある傾向があるので、今後、具体的な取組に落とし込んでいく段階で、加味してほしい。</p> <p>施策37「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたアクションとレガシー」について、「レガシーの活用」という表現が正しいのではないか。</p>
事務局	<p>施策の具体的な取組内容については6月以降の検討会でお示し、ご意見をうかがいたい。</p>
参加者	<p>この計画は予算編成と連動するものなのか。施設の再編や施設改修など、財源が必要な施策があるので、計画に掲げても予算がないと進められないのではないか。「この学校を日本一の学校にする」と、志をもった校長の気持ちをサポートできるよう、予算の獲得をお願いしたい。</p>
参加者	<p>本市では、限られた予算の中で、毎年、事業を実施するために「アクションプラン」という3か年計画を作成し、ローリングしている。そのプランへ掲載し、予算を確保するためにも、その基となる必要な施策が教育振興基本計画に明記されている必要がある。</p>
参加者	<p>施策4「読書活動と体験活動の充実」は読書活動と体験活動が一緒になったが、取り組みとして別物の印象がある。もっと深く検討する必要があるのではないかとと思う。</p>
座長	<p>この2つの施策を一緒にした意図はどのようであったか。具体的な活動を施策名に掲げない方がよいというような意見があったのか。</p>
事務局	<p>読書活動と体験活動は、それぞれ別の活動ではあるが、感性や創造性を育むものとして一つにまとめた。</p>
事務局	<p>読書活動については生涯学習の分野の中に、施策32「読書のまち八王子の推進」という大きな施策として概念があるため、それとは別にここでは、子どもたちの豊かな心を育むための施策としてまとめてはどうかということである。</p>
参加者	<p>新しい学習指導要領では、子どもの資質や能力を育成するという視点になっている。これまでは、読書活動をすれば読解力や豊かな感性が身につくということだったが、今は逆。国は、どんな資質や能力を育てるために、どのような取り組みや指導をすべきかというような考え方になってきている。しかし、感性や創造性を育むために、どのような活動をすればよいか、指導をすればよいのか、施策名を読んだだけでは読み取れない。具体的な教育活動を明記したほうが分かりやすいという意</p>

	見もある。
参加者	<p>基本理念を英語にしてほしい。英語教育を進める中で、この理念をどのように子どもたちに伝えていくのかを考えてほしい。その際、みちを「ロード」ではなく、「キャリア」と捉える。キャリア教育のキャリアとは、生まれてから死ぬまでの人生の道筋や轍のことである。</p> <p>1点課題だと思うのは、市の教育委員会がキャリア教育をどのように捉えているかである。施策展開の方向6「夢や志を持ち挑戦する力を育む教育の推進」の中の具体的施策として、15「職業観・勤労観を育成する教育の推進」とあるが、この施策は施策14「社会で活躍できる多様な力を育成する教育の推進」と大きく関わるものである。キャリア教育の目的はもはや職業観や勤労観を育むためのものではない。職場体験だけがキャリア教育ではなく、現在、国の考えでは、各ライフステージの中で、基礎となる汎用的な力を身に付けていくこととされており、さまざまな教科学習を通じて、将来の職業や生き方に繋げていく学びが必要であり、そのような指導を重視せよとされている。新学習指導要領でも「キャリア教育を充実を図ること」と強く表現されていることから、第3次計画(案)の施策14・15を分けて施策立てするのか、一緒にするのかなども検討しながら、「キャリア教育」という表現を表出していく検討が必要だと思う。基本理念の考え方がキャリア教育につながっていくはずである。</p>
参加者	<p>施策37「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたアクションとレガシー」で、5.1キロメートルだけだが、市内がロードレース会場となった。また、クライミングアメリカ合衆国チームのキャンプ誘致もある。選手たちが利用した施設の跡地利活用なども含め、施策名にロードレース競技やキャンプ誘致の要素を入れても良いのではないだろうか。</p>
事務局	<p>ロードレース、聖火リレー、キャンプ誘致についても表記することで、市民の機運醸成にもつながるのではないかというご意見かと伺える。この施策の内容で検討していきたい。</p>
参加者	<p>今後10年を通じてめざす施策展開の方向4「一人一人のニーズに応じた教育の推進」とあるが、ここは「一人一人」という表現でよいか。</p>
事務局	<p>この部分は個を大事にしている施策群である。</p>
参加者	<p>施策34「スポーツをする場の整備・確保」や施策39「文化財関連施設の拡充」という施策名についてだが、「整備」であるとか「拡充」という表現は、予算が縮小された場合は、この言葉も変更していくということか。</p>
事務局	<p>この計画では、具体的に整備する施設数を表現するわけではない。今後5～10年間で向かう方向性までを示す。前年度の事業を振り返り、次年度の目標を立てて、事業の進捗管理をしていく「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」において、具体的な施設数や整備内容について目標を立てて実施する。その際、毎年度アクションプランに計上した上で予算を確保し、事業を進めて行く。</p>
参加者	<p>逆に言えば、打ち上げ花火的にドンと打ち上げたほうがよいということか。郷土資料館は小学校の授業で利用する機会があるため、老朽化も進んでいることから、建て替える必要があると感じている。例えば「文化財関連施設の拡充」は弱いので、「建設」とするなどは可能なのか。</p>

事務局	この検討会での意見を踏まえ、必要な整備であれば計画に盛り込んでいく。
事務局	郷土資料館は老朽化が進み、第2次計画では、既に建て替えを進めることを明記している。「歴史・郷土ミュージアム」という構想があり、郷土資料館に替わる施設整備計画があることから、第3次計画にも引き続き整備する旨は掲載する。
参加者	「整備」よりも「建設」の方が予算化されやすい印象だが、ここでは「整備」という表現にとどめた方がよいのか。
事務局	一般的にはそうである。ただ、本市では、すでに大規模プロジェクト等で建設が決定しているものであれば「建設」と表現できるが、箱モノだけでない場合は「整備」という表現の方がよいのではないかと考える。
参加者	めざす教育の姿2「学校・家庭・地域の連携による教育力向上」の施策典型の方向7「学校指導体制の向上」とあるが、誰がだれを指導するのか。主語が不明解である。
事務局	ここでは、「学校における」ということ。教員の資質能力や学校の資質を向上させるという意味である。
参加者	「学校指導体制」だと、教育委員会が学校を指導するようなイメージがするので再考を。
事務局	検討する。
座長	ここまで、基本理念や施策展開の方向、具体的施策について意見をいただいたが、そのほかにかあれば発言を。
参加者	Society5.0に関する資料を参考にしながら、次回以降の検討会で議論できればよいと考えている。事務局において資料の準備は可能か。
事務局	Society5.0については、限定した施策に限らず、全体に関わってくるものだと考える。次回までに関連する資料を準備する。
座長	Society5.0は、これからの社会がどのように変わっていくかを示したものであり、AIのことや現在ある職業のうち60%が無くなるとされている中で、人がどのような学びをしていくべきなのか、そのような生き方をしていくべきなのかが基本的な考え方である。資料として活用できればよいと思う。
参加者	施策の数であるが、増えたり減ったりすることで、予算獲得に影響はないか。
事務局	ない。
参加者	家庭と地域が連携するうえで、一つになっているのはよいのだが、今、「家庭教育」の在り方が難しい課題であり、施策としては重要なことと考える。あまり地域と一緒にしてしまうと、埋もれてしまう恐れがある。年代に関わらず、皆で環をもって社会を生きやすくするためにも、生涯学習の分野で「家庭教育」を強く押し出していく施策をもう一つ掲げてほしい。
参加者	「家庭教育」施策は、めざす教育の姿3の枠に入れればすばらしいと思う。生涯学



	習の中での家庭教育の施策があってもよいと思う。
事務局	「家庭教育」については、現在、「いえいく」という家庭教育啓発活動や悩みを抱える保護者を対象にした支援策などを講じているところだが、家庭教育に行政がどこまで立ち入ることができるのか、どのように働きかけていったらよいのかなど、今後ご意見をいただきたい。
座長	教育的な意味合いなのか。家庭教育支援なのか。
参加者	<p>子どもの教育に関して、様々な講座などに積極的に出向く保護者はよいのだが、世間の基本的なことを理解していない方もいる。日本のすべての家庭が皆同じような教育方法でないといけないわけではないが、昔のように地域の皆が隣の家庭の様子を分かっている社会ではなくなった。隣の家庭が見えず、ほかの家庭を比べることがないため、自分の子育て方法が正しいのかわからず悩み、誤った子育てをしてしまっていることが多いようである。</p> <p>はちおうじっ子には最低限必要な統一した常識が身につくような活動があるとよいと思う。例えば、子供会での活動などを通して、地域で育つことで地域の文化が備わるなど、講座に出向いて勉強せずとも、誰もが普段の何気ない活動の中で、基本的な生活や子育ての方法が身につくような取組などがあるとよいと思う。</p> <p>子育て支援も含むことだが、隣近所とのコミュニケーション、関係を築くといったことへの支援策である。このようなことを考慮しながら、施策に盛り込めたらよいと思う。</p>
事務局	第2次計画の中でも「家庭教育支援活動の推進」という施策にもあるように、現在も地域の力を借りて家庭教育を支え、子どもたちへの教育力を高めようという概念がある。ご意見を参考にしながら今後の具体的な施策を検討したい。
参加者	生涯学習と云えど、社会教育の概念や青少年教育、大人の社会性を育むような教育といった、若者でも子育て世代でもある程度の年齢の方でも、社会が最低限教えなければならぬ教育があるという考え方は、まだある。教育基本法にも残っている。本市の生涯学習スポーツ部では、もはやそのような考え方はないのか。それらは学ぶものであり、教えるものではないという発想なのか。(和田)
事務局	所掌とすれば「生涯学習」であるため、社会教育などは後回しになっているような状況である。
座長	<p>多くの意見をいただいた、事務局にはぜひ意見を活かしながら進めていただきたい。</p> <p>2 その他</p>
事務局	特になし。
参加者	検討会で共有したい資料がある場合に、配布していただけるか。
事務局	事前に事務局あてに送付していただければ、参加者全員へ送付する。
	3 閉 会
座長	次回の会議の開催予定について事務局から説明願います。

事務局

次回は6月26日(水)、場所は市役所本庁舎7階701会議室。時間は午後7時から予定している。

次回の会議では、今後10年間を通じてめざす教育の姿3『人生100年時代を見据えた生涯学習の推進』の部分にあたる生涯学習分野の施策のうち、スポーツ施策以外の施策について意見や助言をいただく。

会議資料は、事前に電子メールにて送付する。

本日はこれにて閉会とする。